

現代の結婚観と夫婦別姓に関する研究

○和田 水穂 犬飼 亜子 (埼玉大学)

【目的】 ライフスタイルや個人の価値観が多様化する現代では、結婚観や結婚形態も変化が生じている。また、女性の社会進出に伴い、仕事上の不都合やアイデンティティ喪失等を理由に、結婚後の改姓に反対したり、旧姓を使用し続けることへの要求が増えている。そこで、本研究では、結婚観と夫婦別姓や姓に対する意識の実態を解明し、関係について検討するために、首都圏在住の男女の実態調査を行い、性別で比較研究を行った。

【方法】 首都圏在住の青年期の男性 59 名、女性 60 名の計 119 名を対象に、1999 年 4 月から 7 月まで質問紙調査を実施した。(回収率 88.4%)

【結果】 対象者のうち、特に女性は、男女平等や個人の生き方の自由に対する意識が高いが、それらが直接「姓」に反映されていなかった。つまり、夫婦の姓の選択においては男女平等意識が低く、女性が男性の姓に改姓するといった画一的な考えが多かった。この背景には、男性が主で女性は従が望ましいといったジェンダー観が、男性はもとより、女性にも依然として根強く潜んでいることが考えられた。

これを解決するためには、一人ひとりが「姓の重み」を確認することが必要である。姓について考えることは、自分自身の男女観や家族観を見直し、生き方をより明確にしておく上で重要となる。また、自他のそれを知り、受け入れる機会をもつ結果、さまざまな生き方を選択でき、個人が尊重される社会になっていくと考えられた。